

## ベニスの客船事情

2025. 8. 9 池田良穂

昨年は久々にカリブ海クルーズに乗船して、同クルーズの現状をみることができました。今年は、エーゲ海のクルーズの今をみてみようと考えました。これまでエーゲ海のクルーズには2回乗船しています。最初は35年余り前で、ギリシアのピレウスからの1週間のクルーズで、エピロティキが運航する中古クルーズ客船「ペガサス」でしたが、大きさは1万総トン余り。それでもギリシアのクルーズ客船隊の中では最も大きな船でした。2回目は、太平洋フェリーが3代目「いしかり」の新造のために、社員等にクルーズ体験をさせたいとのことで、社長、船長をはじめとした社員と、日建設計のデザイナーを連れて、ベニス発着のエーゲ海クルーズに乗船しました。当時はカボタージュのためにピレウス港を発着する短期のギリシア島巡りのクルーズはギリシア船しかできなかったもので、アメリカ系のクルーズ会社はイタリアのベニス発着のクルーズを始めていました。乗船したのはロイヤル・カリビアン(RCI)の7万総トン級の「スプレnder・オブ・ザ・シーズ」でした。このクルーズでエーゲ海のサントリーニ島に寄港して、「いしかり」のレストランのイメージがエーゲ海で、サントリーニと名付けられました。

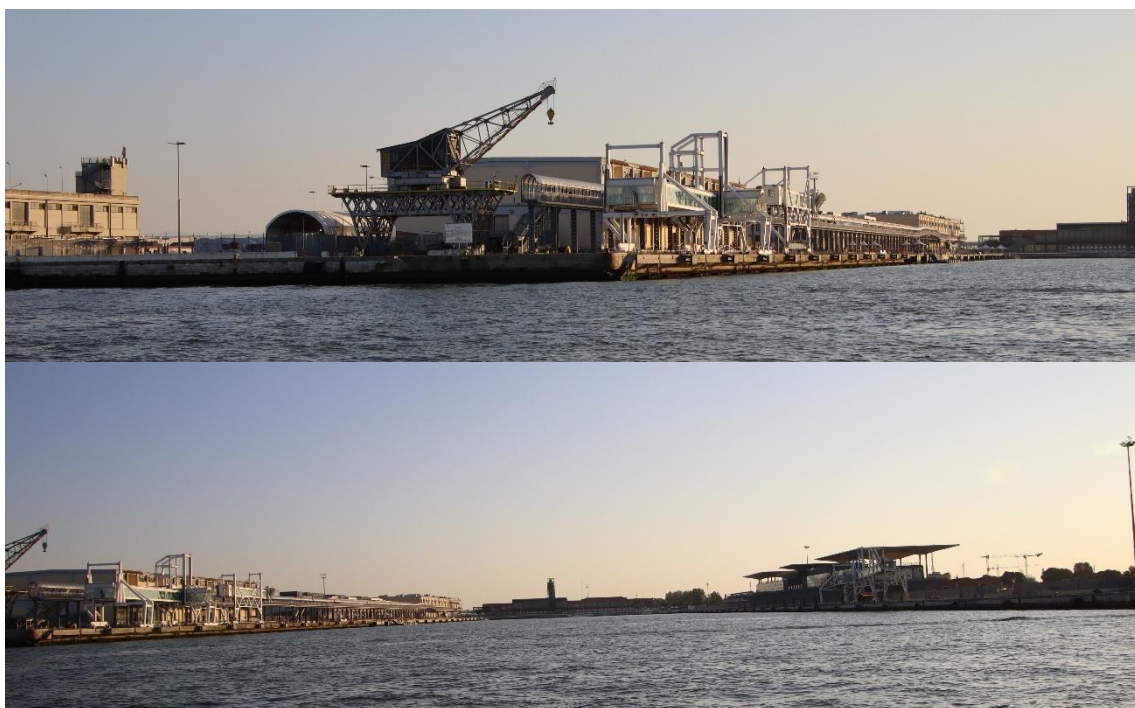
さて、上質でリーズナブルプライスの現代クルーズがエーゲ海クルーズに進出したため、ピレウス発着のギリシア籍のクルーズ客船は全滅し、ピレウス港はアテネ観光をするためのクルーズ寄港港としてのみ機能することとなり、その後、ギリシア政府はクルーズ客船に対するカボタージュ規制を緩和して、外国籍船がピレウス発着クルーズを行えるようになりました。

こうして大型クルーズ客船のエーゲ海クルーズが定着したベニスですが、オーバーツーリズムの矛先がクルーズ客船にもおよび、10万総トン以上のクルーズ客船の入港が禁止される等の対策がとられて、多くのクルーズ会社がベニス発着を諦めて、発着港を近隣の港へとシフトさせています。今回乗船したRCI(ロイヤル・カリビアン・インターナショナル)のエーゲ海クルーズは、ベニス発着と謳っていますが、実は、ベニスから100km以上離れたラベンナという港から出港します。鉄道で3時間余りかかり、空港もベニスのマルコ・ポーロ空港よりは、古都ボローニアの空港の方が近いという位置関係にあります。

この8月に同港を発着するクルーズ客船は、筆者の乗船する「エクスペローラー・オブ・ザ・シーズ」をはじめ、「マイン・シフ6」、「ボイジャー・オブ・ザ・サーズ」、「マレ

ラ・エクスプローラー2」、「MSC エクスプローラ」、「セレブリティ・コンステレーション」の6隻で、8月だけで計11回のクルーズにでています。

ラベンナ港に直行してもよかったのですが、ベニスの客船事情もみてみたかったので、まずは、ベニスに入り、3日間をこの「水の都」で過ごしました。クルーズ客船で賑わっていたベニスの立派なクルーズターミナルは閑古鳥がなき、アドリア海の各地からの大型カーフェリーの便も減っていて、滞在した3日間でベニスの港で出会ったクルーズ客船は、フランスのポナン社の「ロストラル」だけで、しかもクルーズターミナルではなく市街地に近い岸壁に停泊していました。

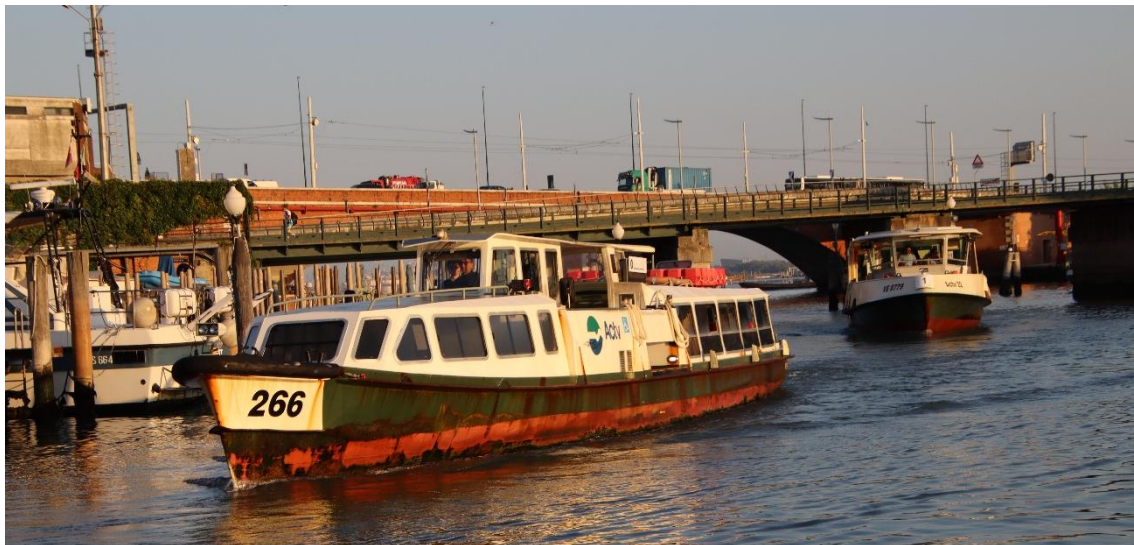


滞在した3日間、クルーズ客船、大型カーフェリーが一隻も入港せずに、閑古鳥のなく状態のベニスの客船ターミナルです。かつては大型客船がたくさん繋がれていました。

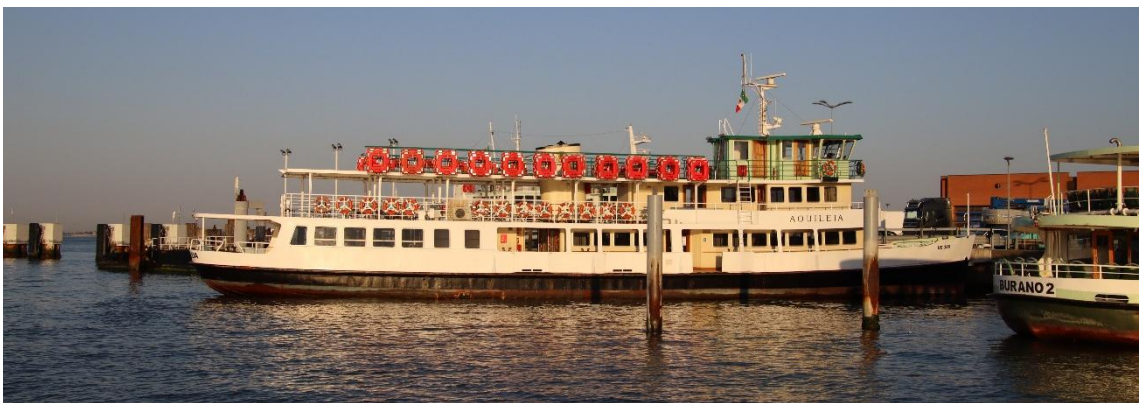


滞在した3日間で、ベニスに寄港した唯一のクルーズ客船はポナンの「ロストラル」で、新しいクルーズターミナルではなく、市街地に近い岸壁を利用していた。





ベニスの中心部の市街地には車道はなく、運河を走る水上バスが市民と観光客の足となっています。料金は1回9ユーロ(約1530円)、1日券が25ユーロ(約4250円)と結構高い価格です。ただしベニス在住者はこれよりかなり安く設定されていました。



ベニスの中心街では車は入れませんが、細長い砂州の上に鉄道線路と道路が引かれていてイタリア本土と繋がれており、鉄道駅の近くにはバスターミナルやトラック駐車場があり、また近隣の島へのカーフェリーや旅客船が発着する離島航路ターミナルがあります。そこから発着するカーフェリーと旅客船の姿です。





ベニスの水上バスとともに移動の足になっているのが水上タクシーで、お客をホテル、お店、観光地の近くの桟橋に届けます。4人以上乗れば水上バスより安くなることもあります。下の写真は水上タクシー乗り場で待機する船です。





ベニスの名物ゴンドラです。観光用が中心ですが、大運河を渡す船もあるようです。一本の櫂で、前後左右に船を動かす技量には驚きです。



櫂の支点となる複雑な形状の支柱の各部を使って、前後左右への推進力を発生させます。日本の櫓とは違って、たいへん面白い人力推進の方法です。





ゴンドラの船型は左右対称ではなく、片舷で櫂を操作しても真っすぐに走るようになっています。



観光用のゴンドラで渋滞状態の細い水路です。





ベニスでは、陸路搬入されたあらゆる荷物が船によって市内に配送されます。





荷物の積み降ろしは人が多いのですが、一部の船はクレーンを搭載していました。

この他、病人を運ぶ救急船、警察のパトロール船、ごみ回収船などなど、様々な船を見られるのがベニスです。  
ちなみにベニスは英語で、イタリア語ではヴェネチアとなります。